

DX 戦略について

■トップメッセージ

昨今の国内外の情勢は、新型コロナウイルスの影響、労働需要の不均衡、気候変動など、これまでの経験を超える激変の中にあります。この状況は、建設業における「人材不足や長時間労働」などの労務課題の解決をさらに困難にしています。しかし、私たちの使命である地域社会のインフラを支えることに変わりはありません。

私たち大鎌電気株式会社は、このような状況を踏まえ、「地域のために何ができるのか」という問いに答え続けるために、DX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に推進してまいります。DXを通じて、業務の効率化や生産性の向上を図り、より安全で迅速かつ高品質なサービスを提供することで、地域社会に貢献してまいります。

また、少子高齢化が進行する中、労働需要の緊迫が続き、働き方改革関連法が順次施行されている現状においても、私たちはデジタル技術を活用し、変革を実現します。デジタルイノベーションを積極的に取り入れ、変化する環境に柔軟に対応しつつ、お客様により満足いただけるサービスを提供していく所存です。

この変革の時代において、私たちは全社員一丸となって、誠実に、安全に、迅速に取り組んでまいります。

2024年7月1日

大鎌電気株式会社

代表取締役 大鎌 幸雄

■DX ビジョンと DX 推進の基本方針

デジタル技術が社会や自社の競争環境に与える影響について、当社は深く認識しております。デジタル技術は業務の効率化や自動化を促進し、新しいビジネスモデルやサービスの創出を可能にします。また、働き方の多様化を推進し、競争力を強化します。市場変動への対応力も向上し、顧客満足度の向上や市場シェアの拡大が期待されます。そこで弊社では、次のDX ビジョンとDX 推進の基本方針を策定しました。

【DX ビジョン】

私たち大鎌電気株式会社は、デジタル技術の活用を通じて、新たな価値をお客様に提供し、地域社会の発展に寄与します。また、従業員が安心して働ける環境を整え、建設業界の魅力向上を目指します。

【DX 推進の基本方針】

1. デジタルによる業務効率化

・業務プロセスを変革し、労働環境を改善することで、より安定したサービスと多様な働き方を提供します。

2. 業務効率化による新たな価値の創出

・業務の効率化を進めることで、顧客との接触時間を増やし、新しいサービスを提供する余地を広げます。これにより、顧客満足度の向上と新たなビジネスチャンスの創出を目指します。

■DX 推進における施策と具体的な取り組み

DX の推進により、当社の業務効率化と品質向上を図り、持続可能な成長を実現します。以下に、具体的な施策と取り組みをご紹介します。

1. 現場業務の効率化&最適化

現場業務について、マンパワー依存から脱却し、効率化&最適化を実現します。これまでの建設業界にはなかった働き方を提供します。

・現場業務の分業化

業務の棚卸を行い、現場でしかできない業務と現場でなくともできる業務の切り分けを行います。これにより、専門性の高い業務に集中し、効率的な作業環境を構築します。

・リモートワーカーの配置

現場業務の中で誰でもできる業務（書類作成など）をリモートワーカーに依頼するための環境整備を進めます。デジタル技術を活用してデータを共有し、リモートワーカーが効率的に業務を遂行できるようにします。これにより、現場の負担を軽減し、作業効率を向上させます。

2. 工事实績の一元管理とナレッジの活用

各部署や担当者が個別に管理している工事实績データを、クラウドツールや基幹システムを活用して一元管理します。蓄積されたデータは全社的なナレッジとして活用することで、現場の改善や営業活動に役立てます。

・工事データの一元管理

クラウドツールや基幹システムを導入し、工事のデータを一元的に管理します。これにより、各部署間でのデータのばらつきを防ぎ、リアルタイムでの情報共有が可能になります。

・蓄積データのナレッジ化

一元管理された工事データを全社的なナレッジとして蓄積&活用し、現場の改善や営業活動に結び付けます。例えば、過去の工事实績データを分析することで、効果的な改善策を導き出し、営業活動において的確な提案を行えるようになります。これにより、業務全体の

質を向上させ、競争力を高めます。

3.最新技術を活用した施工の促進

新しい施工技術を積極的に導入することで現場効率化および品質向上を実現し、建設現場から新しい価値を創造します。

- ・ AR 技術の導入と活用

現実世界と仮想世界を融合し、現場業務を高効率化します。これにより、スキル習得が高速化し、情報共有・理解の迅速化を実現します。

- ・ 図面管理&情報共有システムの導入と活用

建設現場における情報管理を効率化し、作業の正確性を向上させます。

- ・ 3D CAD システムの導入と活用

設計の精度を高め、施工前に詳細なシミュレーションを行うことで、品質向上とミスの削減を図ります。

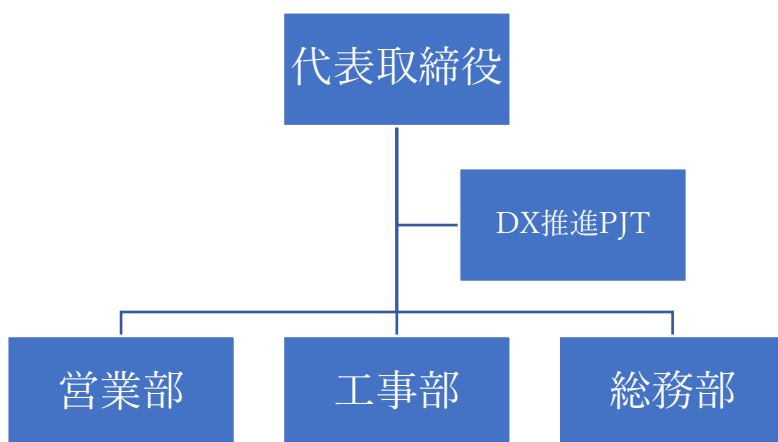
これらの施策を通じて、当社は DX の推進を図り、業務の効率化と品質向上を実現し、持続可能な成長を目指してまいります。

■人材育成における施策

DX 人材創出を念頭に、組織体制を見直し、教育体制を整備・強化することで、持続可能な組織を構築します。

1.DX 推進 PJT の設置

・業務改善を DX によって実現するため、専門のプロジェクトチームを設置します。このチームは、業務プロセスの最適化や新しいデジタルツールの導入を推進し、社内の生産性向上を目指します。



2.DX 関連研修の実施

・外部講師を招き、DX に関連する研修を定期的の実施します。社員が最新のデジタル技術やトレンドを学び、実践的なスキルを身につけることで、会社全体のデジタルリテラシーを向上させます。

3.外部機関との連携

・外部の専門機関と連携し、最新のノウハウを社内に取り込みます。これにより、業界の成功事例を取り入れ、社員のスキルアップと業務の効率化を図ります。

これらの取り組みを通じて、大鎌電気株式会社は、DX 人材の確保と育成を推進し、持続可能な組織を構築していきます。社員一人ひとりがデジタル技術を駆使し、地域社会に貢献するための基盤を築いてまいります。

■環境整備の施策

最新の情報処理技術を効果的に活用し、業務効率の向上と安全なデータ管理を実現するために、以下の具体的施策を講じます。

1.業務フロー図等の整備による業務の可視化

・業務フロー図を整備し可視化で、関係者間における業務の流れを共有します。これにより、業務の標準化を推進するとともに、今後のプロセス改善にも柔軟に対応できる体制を整備します。

・また、可視化された業務フローは、新たなデジタルツールの導入や DX 推進 PJT の基盤としても活用されます。

2.クラウド移行に向けた環境整備

・データ保管サーバのクラウド移行を推進します。業務データをクラウドで管理することで、場所を問わずデータにアクセスでき、印刷することなく効率的な業務運営が可能になります。

・紙帳票のさらなるデジタル化を進め、クラウドへの移行を推奨します。これにより、ペーパーレス化を実現し、情報の管理と共有が容易になります。

3.セキュリティ対策の強化

・端末のセキュリティ強化を図ります。最新のセキュリティソフトウェアを導入し、ウイルス対策や不正アクセス防止のための措置を講じます。

・社員向けにセキュリティ教育を実施し、情報セキュリティに関する意識を高めることで、リスクを未然に防ぎます。

これらの施策を通じて、最新の情報処理技術を効果的に活用し、業務効率の向上と安全なデータ管理を実現します。

■達成状況に係る指標

1. 人時売上高

指標: $\text{完成工事高} \div \text{総労働時間}$

目的: 労働時間当たりの完成工事高を測定し、効率的な業務運営を評価する。

2. デジタルツール利用率

指標: $\text{デジタルツールを使用している従業員数} \div \text{全従業員数}$

目的: デジタルツールの普及度を測定し、DX 推進の進捗を評価する。

3. 業務改善件数

指標: 一定期間内に実施された業務改善の件数

目的: DX による業務改善の効果を把握し、継続的な改善活動の進捗を評価する。